

注 1) 渡りの区分は、「三重県における鳥類分布・生息に関する調査報告書（農林水産部林業事務局緑化推進課、1987年3月）」および「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著、2002年）」を参考にした。

留鳥：一年中見ることのできる種 夏鳥：繁殖のために渡来する種

外来種：人為により外国から移入された種

注 2) 特筆すべき種の選定基準は下記のとおりである。

天然記念物：「文化財保護法」（1950年5月公布・同8月施行）により地域を定めずに天然記念物に選定されている種および亜種を示す。

種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992年6月公布・1993年4月施行）において希少野生動植物種に指定されている種および亜種を示す。

II：国際希少野生動植物種

環境省 RL2012：「環境省第4次レッドリスト（2012）（第4次レッドリストの公表について 環境省報道発表資料平成24年8月28日）」に記載されている種および亜種を示す。

VU：絶滅危惧II類

三重 RL2014：「三重県レッドリスト（2014年版）」（三重県農林水産部みどり共生推進課）に記載されている種および亜種。（ ）内は指定対象個体群を示す。

CR：絶滅危惧 IA類：ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN：絶滅危惧 IB類：IA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

NT：準絶滅危惧：生息条件の変化によっては、「絶滅危惧種」に移行する要素を持つ種

LC：低懸念：評価の結果、絶滅の懸念は低いと判定された種

近畿版 RDB：「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著、2002年）」に記載されている種を示す。（ ）内は指定対象個体群を示す。

R2：ランク 2、絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。

R3：ランク 3、準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。


R4：ランク 4、要注目種。何らかの攪乱によって一気に絶滅する可能性がある。あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

1) コチドリ

コチドリの生態情報及び確認状況を表 3.2-3 に示す。

コチドリは、平成 26 年度調査において確認されなかった。

表 3.2-3 特筆すべき種の生態及び確認状況（コチドリ）

コチドリ	チドリ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RL	NT	近畿 RDB	R3 繁殖
生態	日本では北海道、本州、四国、九州等に主に夏鳥として飛来して繁殖する。三重県内では各地の中・下流の河原や海岸部で少数が繁殖している。河川周辺の砂礫地や干潟、砂浜、植生が疎らな立地で見られる。大規模に整地している工事現場等で、短期間放置されている荒れ地状の所でもみられる。砂泥地の表面から、昆虫の成虫・幼虫をくわえとる。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖する。								
確認 状況	平成 26 年度調査では確認されなかった。								
									
コチドリ									
「平成 23 年度国補中勢志登低率第 2602-2 分 2003 号中勢沿岸流域下水道(志登茂川処理区)志登茂川浄化センター環境事後調査業務報告書」より転載。									


2) シロチドリ

シロチドリの生態情報及び確認状況を表 3.2-4 に、確認位置を図 3.2-2 に示す。

平成 26 年 5 月に浜辺で採餌する 1 個体、平成 26 年 6 月に波打ち際で採餌する 3 個体、草が混じる砂浜で休息中の 1 個体、計 4 羽を確認した。また、平成 26 年 7 月には波打ち際付近で採餌中の個体 1 羽を、平成 26 年 8 月には波打ち際付近で採餌中の個体 2 羽を、9 月 26 日には草が混じる砂浜で 1 羽を、平成 27 年 1 月には 2 羽を確認した。

なお、平成 26 年 6 月にはつがいで確認されたことから、調査範囲内での繁殖の可能性があったが、繁殖は確認されなかった。

表 3.2-4 特筆すべき種の生態及び確認状況（シロチドリ）

シロチドリ	チドリ科	種の 保存法	-	環境省 RL	VU	三重県 RL	CR 繁殖 NT 越冬	近畿 RDB	R3 繁殖
生態	三重県内では海岸部を中心に広く分布している。海岸の砂浜、河口の干潟、大きい河川の広々とした砂洲等で繁殖し、渡り期や越冬地では海岸や河口の干潟、潟湖、湖沼、ため池、河川等の砂泥地でみられる。干潟や砂地を走って、鞘翅類や半翅類等の昆虫、クモ類、ハマトビムシ等の甲殻類、ミミズやゴカイ類、小型の貝類等を食べる。繁殖期は 3～7 月、一夫一妻で繁殖する。巣は、砂地の漂流物の間や疎らな草の間等の浅い窪みに、木片、小石、貝殻片等を敷いて作る。1 巣卵数は 3 個が多い。								
確認 状況	平成 26 年 5 月 9 日に 1 羽、6 月 24 日に延べ 4 羽、7 月 22 日に 1 羽、8 月 5 日に 2 羽、9 月 26 日に 1 羽、平成 27 年 1 月には 2 羽を確認した。								
									
シロチドリ									
平成 26 年 6 月 24 日撮影									

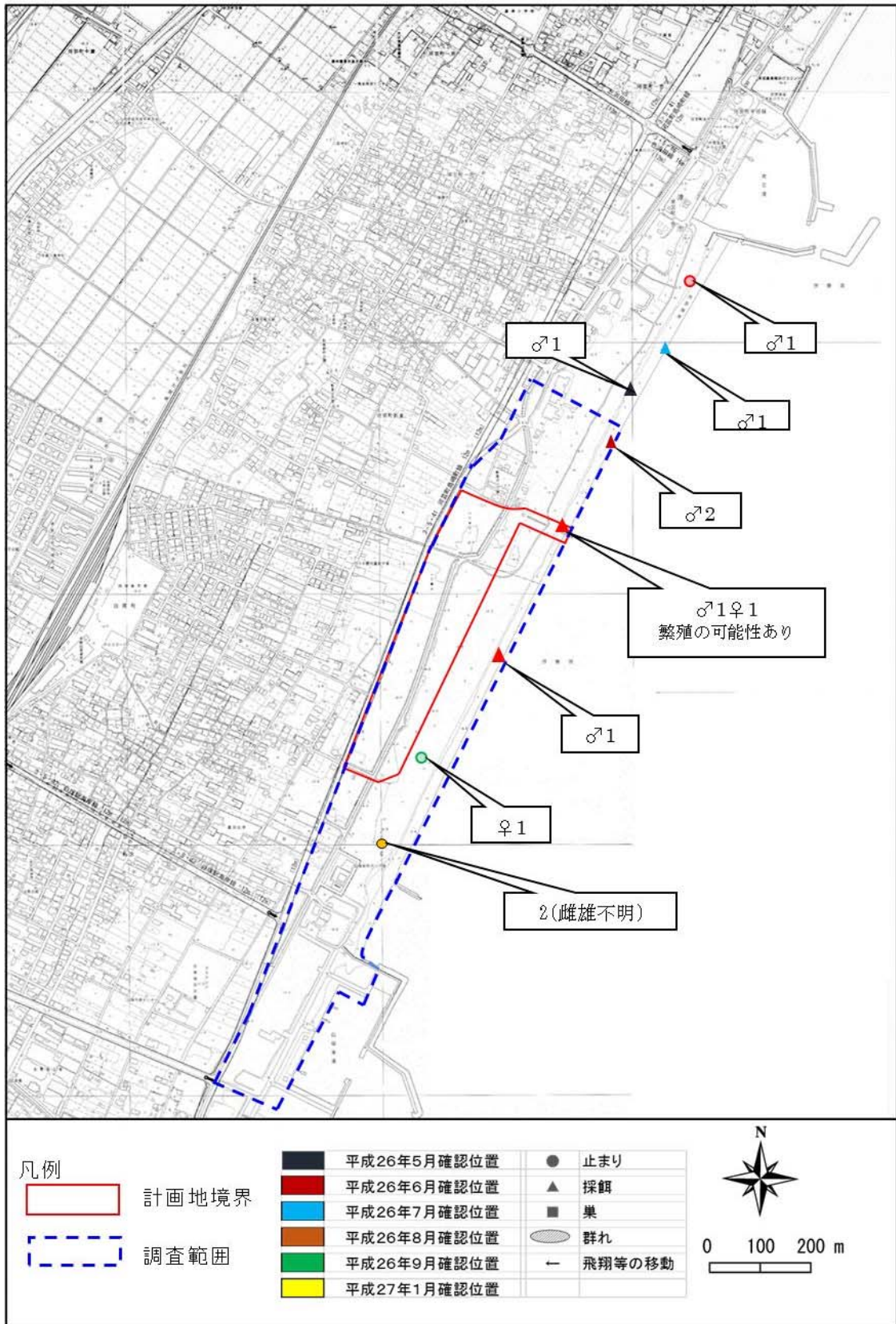


図 3.2-2 シロチドリの確認位置


3) コアジサシ

コアジサシの生態情報及び確認状況を表 3.2-5 に、確認位置を図 3.2-3 に示す。

コアジサシは、6月の調査において海面上で採餌する5羽を確認した。

なお、繁殖は確認されなかった。

表 3.2-5 特筆すべき種の生態及び確認状況（コアジサシ）

コアジサシ	カモメ科	種の 保存法	II	環境省 RL	VU	三重県 RL	CR	近畿 RDB	R2 繁殖
生態	日本には夏鳥として渡来し、本州以南で局地的に繁殖する。三重県では海岸を中心に確認されている。湖沼、河川、河口等の大きい水系のある河原、砂州、砂浜で見られる。水面上空を停空飛翔を交えて飛翔し、ダイビングして小魚を捕らえる。繁殖期は5～7月で、一夫一妻で繁殖する。捕食者が近づきにくい中州の砂地に産卵する。1巣卵数は1～4個で、3個が多い。								
確認 状況	平成26年5月9日の調査では、海面上で採餌する2個体と砂浜で休息する3個体を、6月24日の調査では、海面上で採餌する5個体を確認した。								
									
コアジサシ									
平成26年6月24日撮影									

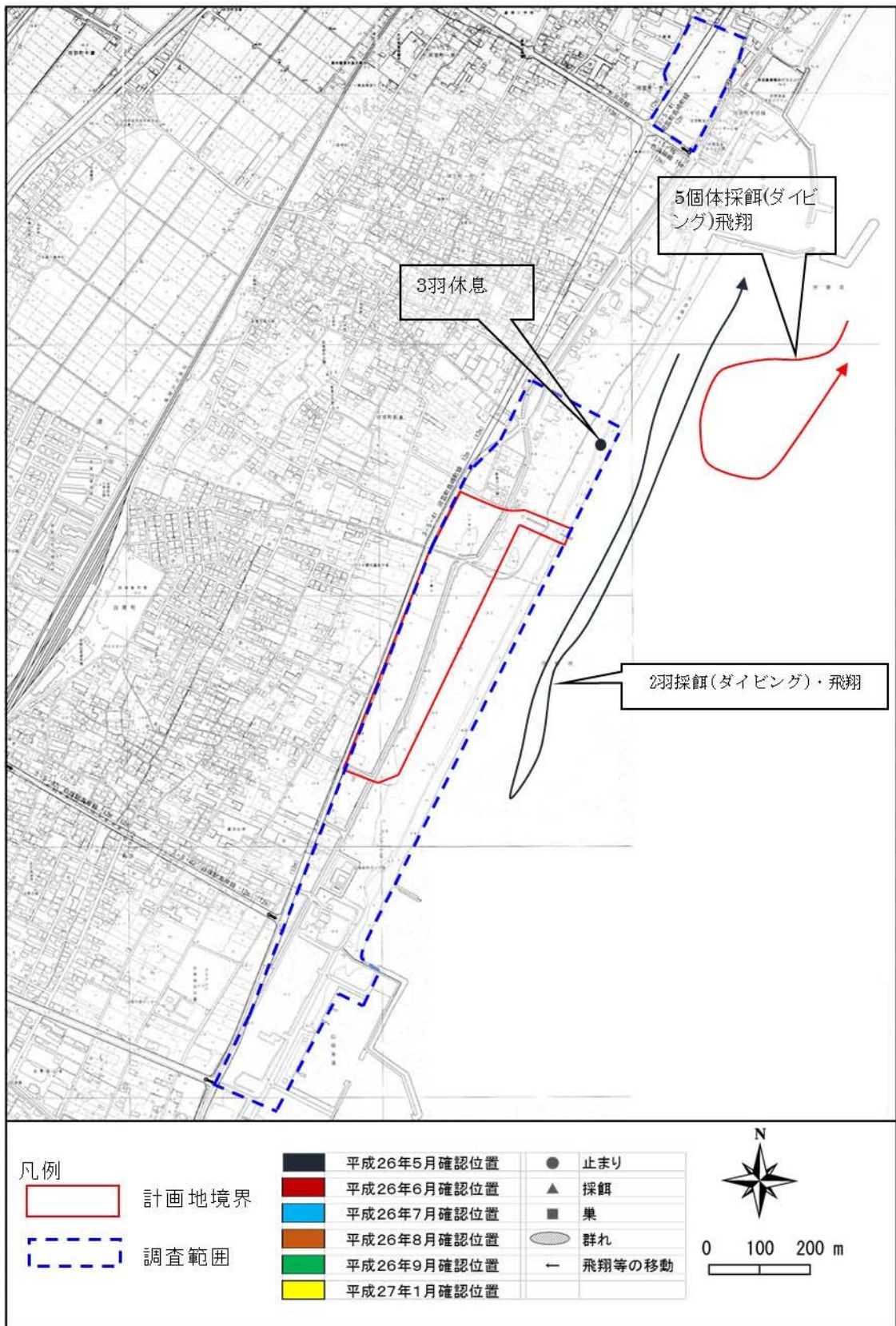



図 3.2-3 コアジサシの確認位置

4) ミユビシギ

ミユビシギの生態情報等を、表 3.2-6 に示す。

ミユビシギは、平成 26 年度調査において確認されなかった。

表 3.2-6 特筆すべき種の生態および確認状況（ミユビシギ）


ミユビシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	NT	近畿 RDB	R2 通過
生態	日本には旅鳥として全土に現れ、8～10月と5月に見られる。本州以南では少数が越冬する。三重県内では、川越町、四日市市、津市、松坂市等で記録されている。海岸の波打ち際、広い砂浜、干潟、干拓地の水たまり等で見られる。波打ち際で採食する。波の動きに合わせてまるでチドリ類のように走り回り、慌てて隠れようとするハマトビムシ等をついばむ。								
確認 状況	平成 26 年度調査では確認されなかった。								
									
ミユビシギ									
「平成 25 年度国補中勢志登低率第 2602-2 分 2001 号中勢沿岸流域下水道(志登茂川処理区)志登茂川浄化センター環境事後調査業務委託報告書」より転載。									

5) キアシシギ

キアシシギの生態情報等を、表 3.2-7 に示す。

キアシシギは、平成 26 年度調査において確認されなかった。

表 3.2-7 特筆すべき種の生態および確認状況（キアシシギ）


キアシシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として春と秋に全土に現れるが、九州および南西諸島では少数が越冬する。越冬地や渡り期には、海岸や河川の砂浜、干潟や砂礫地に現れる。浅く水につかる泥地や砂礫地の汀線で水中から甲虫や双翅類等の昆虫をついばむ。非繁殖期には小群で見られる。								
確認 状況	平成 26 年度調査では確認されなかった。								
									
キアシシギ									
「平成 24 年度国補中勢志登低率 第 2602-2 分 2001 号 中勢沿岸流域下水道(志登茂川処理区) 志登茂川浄化センター環境事後調査業務委託報告書」より転載。									

6) イソシギ

イソシギの生態情報等を、表 3.2-8 に示す。

イソシギは、平成 26 年度調査において確認されなかった。

表 3.2-8 特筆すべき種の生態および確認状況（イソシギ）


イソシギ	種の保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R2 繁殖
生態	国内では北海道、本州、四国、九州で繁殖する。北海道、本州北部の個体群は、冬季は南へ移動する。河原や湖岸などの裸地・草地の地上で営巣する。昆虫のほか、軟体動物、甲殻類、クモなども採食する。							
確認状況	平成 26 年度調査では確認されなかった。							
 <p data-bbox="742 1529 852 1563">イソシギ</p>								
「中勢沿岸流域下水道（志登茂川処理区）志登茂川浄化センター設置に伴う工事中における事後調査報告書」（平成 22 年 3 月）より転載。								

7) キョウジョシギ

キョウジョシギの生態情報等を表 3.2-9 に、確認位置を図 3.2-4 に示す。

キョウジョシギは、事前調査の平成 26 年 5 月 9 日に河芸漁港において採餌する 4 個体を確認した。

表 3.2-9 特筆すべき種の生態および確認状況（キョウジョシギ）

キョウジョシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として全土に現れ、秋は 8～10 月、春は 4～6 月に見られる。渡り期や越冬地では海岸で見られ、まれに内陸の河川に現れる。海岸では砂浜や河口の砂泥地にも現れるが、岩石地や砂利地の海岸を最も好む。								
確認 状況	事前調査の平成 26 年 5 月 9 日に河芸漁港で、採餌する 4 個体を確認した。								
									
<p>キョウジョシギ</p> <p>平成 26 年 5 月 9 日撮影</p>									

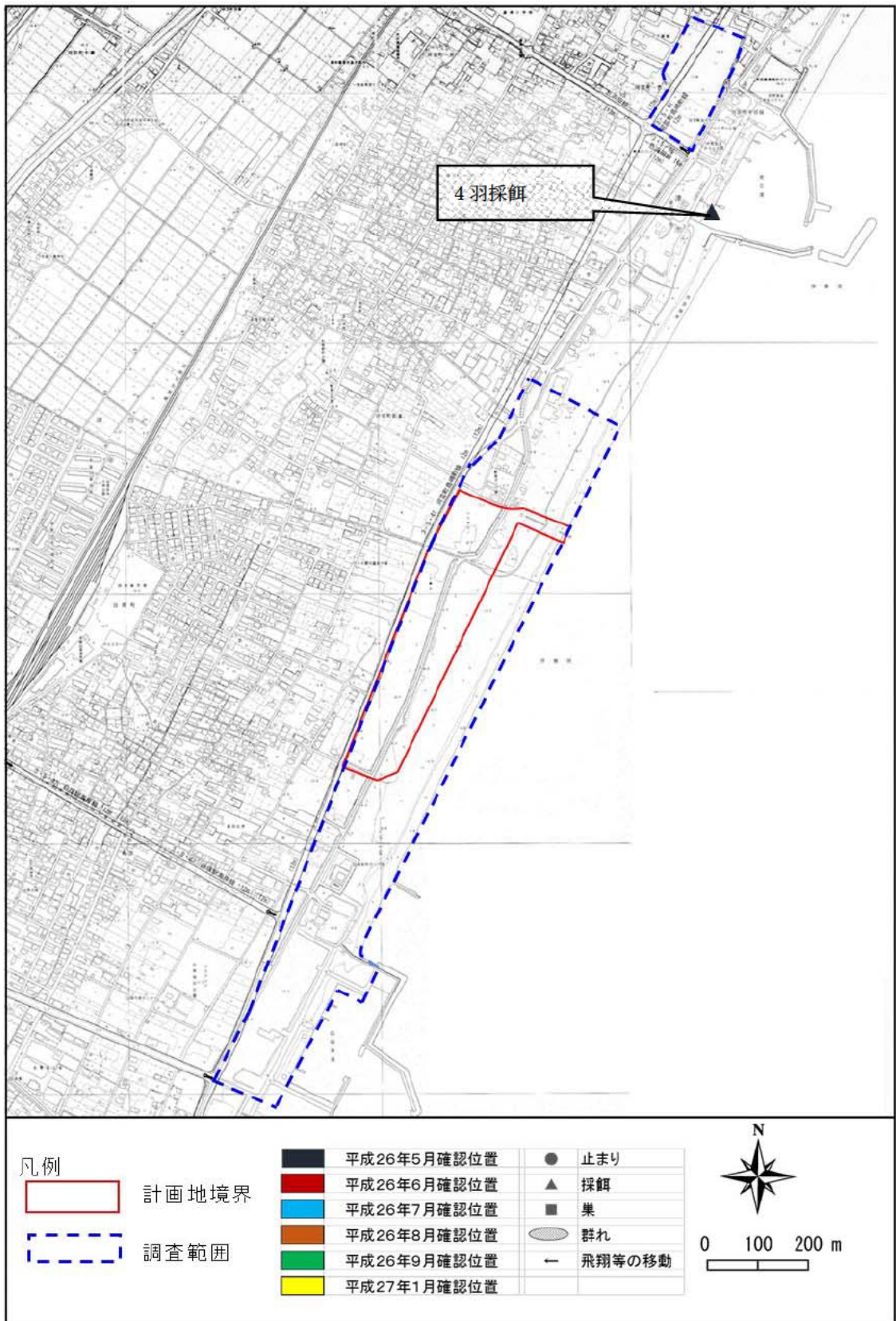



図 3.2-4 キョウジョシギの確認位置

8) トウネン

トウネンの生態情報等を表 3.2-10、確認位置を図 3.2-5 に示す。

トウネンは、事前調査の平成 26 年 5 月 9 日に浜辺で休息中の 11 個体を確認した。

表 3.2-10 特筆すべき種の生態および確認状況（トウネン）

トウネン シギ科		種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として各地に多数が現れる小型のシギである。フィルム状に水につかる砂泥地の表面で採餌する。気ぜわしく歩き回り、細かくくちばしを使ってつばむ。ミミズ、ゴカイ類、甲殻類、昆虫、小貝、草の種子などを泥の表面からつまみとったり、軽く突き刺したり、いづらか探りを入れたりして捕らえる。								
確認 状況	事前調査の平成 26 年 5 月 9 日に浜辺で休息中の 11 個体を確認した。								
									
トウネン									
平成 26 年 5 月 9 日撮影									

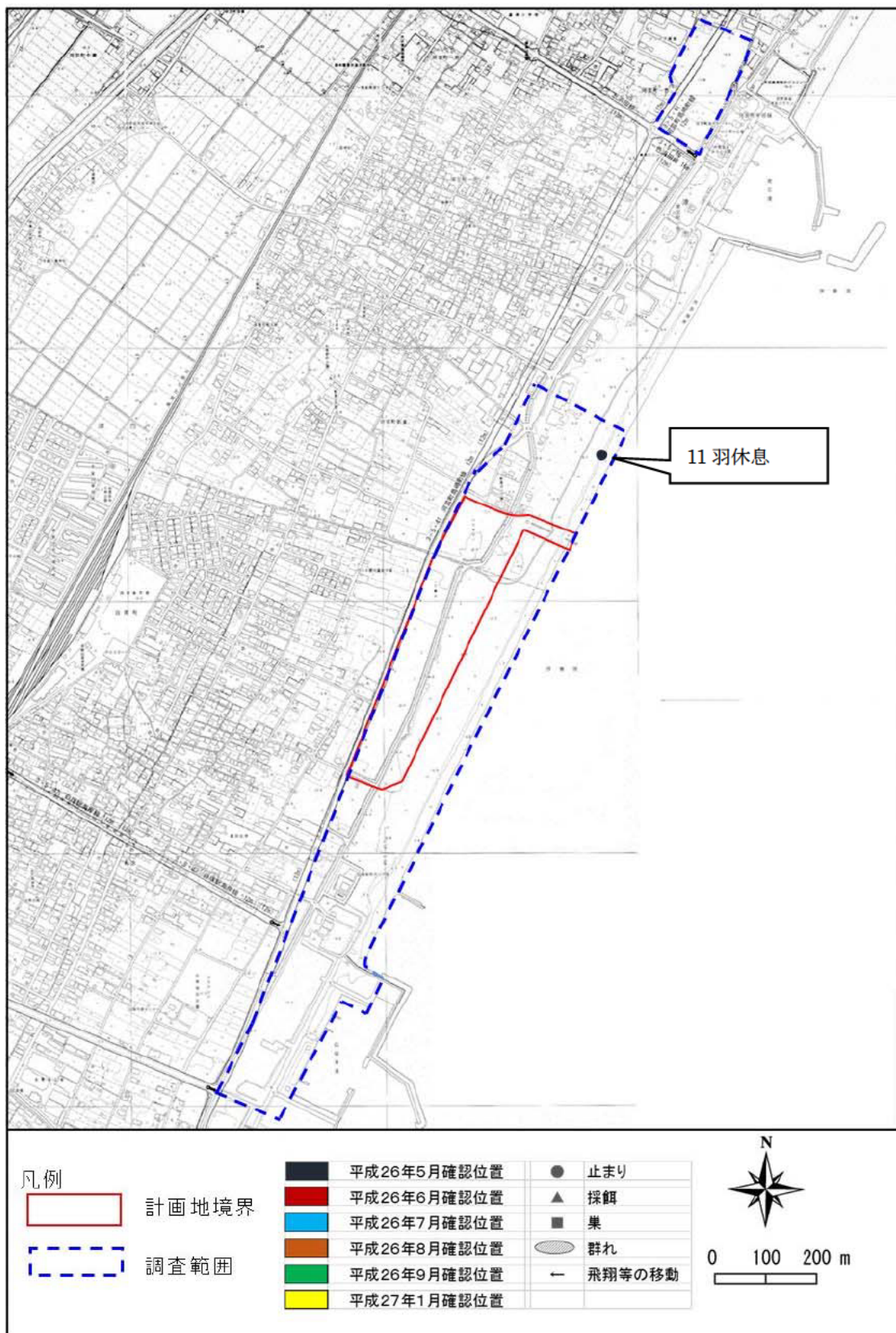


図 3.2-5 トウネンの確認位置


9) ハマシギ

ハマシギの生態情報等を表 3.2-11 に、確認位置を図 3.2-6 に示す。

ハマシギは、平成 27 年 1 月 16 日に海上を飛翔する 12 羽及び砂浜で休息する 5 羽を確認した。

なお、繁殖行動は確認されなかった。

表 3.2-11 特筆すべき種の生態および確認状況（ハマシギ）

ハマシギ シギ科		種の 保存法	-	環境省 RL	NT	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 越冬
生態	日本には旅鳥として 8～10 月頃と 4～5 月頃に現れ、渡来数も多い。また、北海道から南西諸島に至る各地の海岸や内陸の河川で少数が越冬する。砂泥地の薄くフィルム状に水につかるところを歩き回って、水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどの甲殻類を食べる。								
確認 状況	平成 27 年 1 月 16 日に海上を飛翔する 12 羽、砂浜で 5 羽を確認した。								
									
ハマシギ(手前の 2 羽)									
平成 27 年 1 月 16 日撮影									

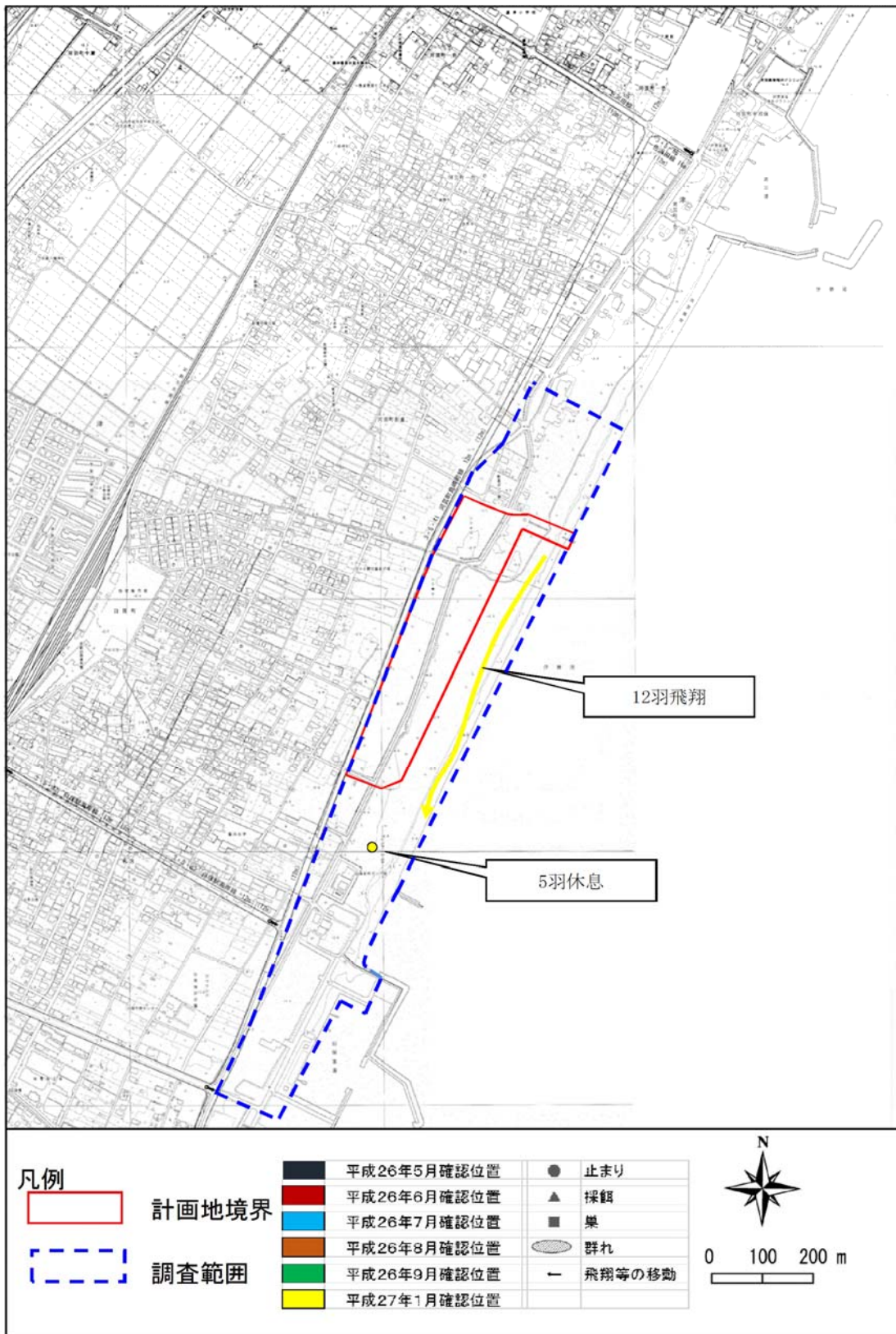



図 3.2-6 ハマシギの確認位置

10) チュウシャクシギ

チュウシャクシギの生態情報等を表 3.2-12 に、確認位置を図 3.2-7 に示す。

チュウシャクシギは、事前調査の平成26年5月9日に浜辺で休息する1羽を確認した。

表 3.2-12 特筆すべき種の生態および確認状況（チュウシャクシギ）

チュウシャクシギ シギ科		種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として9～10月頃と4～5月頃に現れる。海岸の干潟、砂浜の水たまり、マングローブ林のふち、河川の砂泥地、水田などでみられる。大きい体と下湾した長いくちばしを使って泥地を歩き、もっぱら泥の中に探りを入れ、こじるようにしてカニやカエルなどをほじり出す。カニを取り出すと、振り回して足をばらばらにして呑み込む。								
確認 状況	事前調査の平成26年5月9日に浜辺で休息する1羽を確認した。								
									
チュウシャクシギ									
平成26年5月9日撮影									

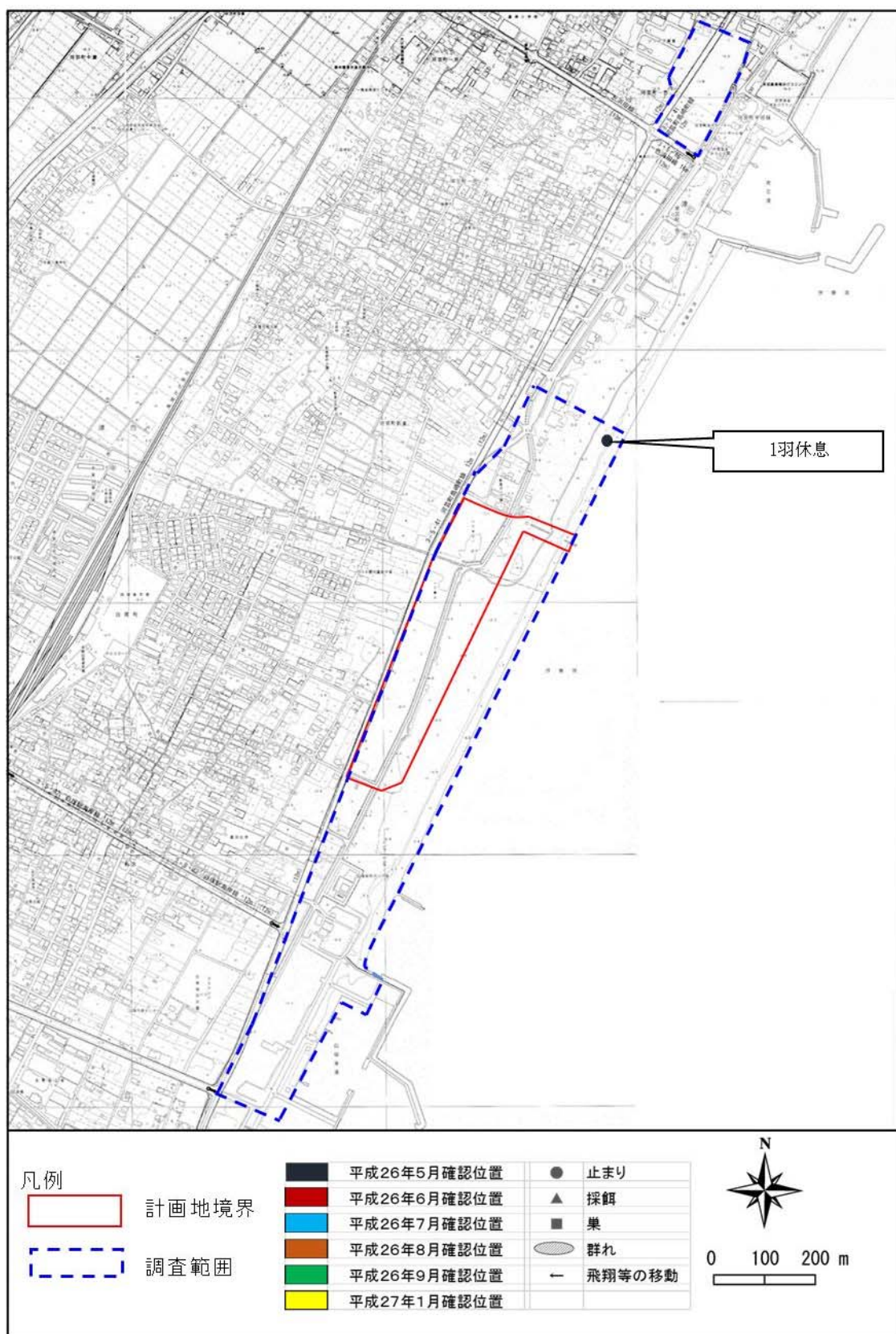



図 3.2-7 チュウシャクシギの確認位置

11) アオアシシギ

アオアシシギの生態情報等を、表 3.2-13 に示す。

アオアシシギは、平成 26 年度の調査において確認されなかった。

表 3.2-13 特筆すべき種の生態および確認状況（アオアシシギ）

アオアシシギ	シギ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 通過
生態	日本には旅鳥として春と秋に各地に現れ、干潟・河口・水田・湖沼等に生息する。昆虫類・両生類・甲殻類・小魚などを捕食し、浅く水につかる泥地を歩き、くちばしでつかみ取ったり、探りを入れたりして採餌する。繁殖は 4～7 月で、樹木や石のそばに巣を作り、卵数は 3～4 個。								
確認 状況	平成 26 年度の調査では確認されなかった。								
 <p>アオアシシギ</p>									
「平成 25 年度国補中勢志登低率第 2602-2 分 2001 号中勢沿岸流域下水道(志登茂川処理区)志登茂川浄化センター環境事後調査業務委託報告書」より転載。									

なお、シギ・チドリ類に関しては、環境省が毎年モニタリング調査を実施しており、「環境省請負業務 モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査春期調査報告書(環境省自然環境局生物多様性センター)」として公表されている。本調査範囲の近傍では、「豊津浦～町屋浦」と「安濃川河口～志登茂川河口」にモニタリング調査地が設定されている。

2014 年の春季最大個体数は「豊津浦～町屋浦」で 7 種(シロチドリ、メダイチドリ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ミユビシギ、ハマシギ)の個体数合計は 681 であり、2013 年の 11 種 747 個体に比べ、種数、個体数ともに減少している。また、「安濃川河口～志登茂川河口」で 10 種(ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ミユビシギ、ハマシギ)の合計個体数は 903 となっており、2013 年の 13 種 879 個体に比べ、種数が減少している。

12) オオヨシキリ

オオヨシキリの生態情報及び確認状況を表 3.2-14 に、確認位置を図 3.2-8 に示す。

オオヨシキリは、6月の調査において河芸漁港西側のヨシ原において3個体の囀りを確認した。7月の調査では、個体、囀り等確認されなかったが、8月には調査範囲内で2個体を目視確認した。

また、9月調査においてオオヨシキリの巣を、地区外の河芸漁港西側のヨシ原において1箇所確認した。なお、地区内では営巣跡は確認されなかった。

表 3.2-14 特筆すべき種の生態及び確認状況（オオヨシキリ）

オオヨシキリ	ウグイス科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RL	LC	近畿 RDB	R3 繁殖
生態	日本には夏鳥として4月下旬ころ北海道北・東部を除く全国に渡来する。8～9月には渡去し、東南アジアで越冬する。三重県では平野部を中心に各地に生息する。水辺のヨシ原に生息し、海岸や河口等の低地の湿原や、山地の湖岸や川岸の湿地でふつうに繁殖する。茎から茎へと移動しながら細くとがったくちばしで昆虫を捕らえる。繁殖期は5～8月、年に1～2回繁殖する。一夫多妻で繁殖し、ヨシの茎の間にイネ科植物の茎、枯葉等を使用してコップ状の巣を造る。雄は渡来するとヨシ原になわばりを構え、ヨシやヤナギの上部に止まってギョギョシ、ギョギョシと聞こえる特徴のある声で夜も昼も囀り続ける。								
確認 状況	平成26年6月24日に河芸漁港西側のヨシ原において3個体の囀りを確認した。 平成26年8月5日に調査範囲内で2個体を目視確認した。								
									
オオヨシキリ 平成26年6月24日撮影									
									
囀りが確認されたヨシ原 平成26年6月24日撮影									

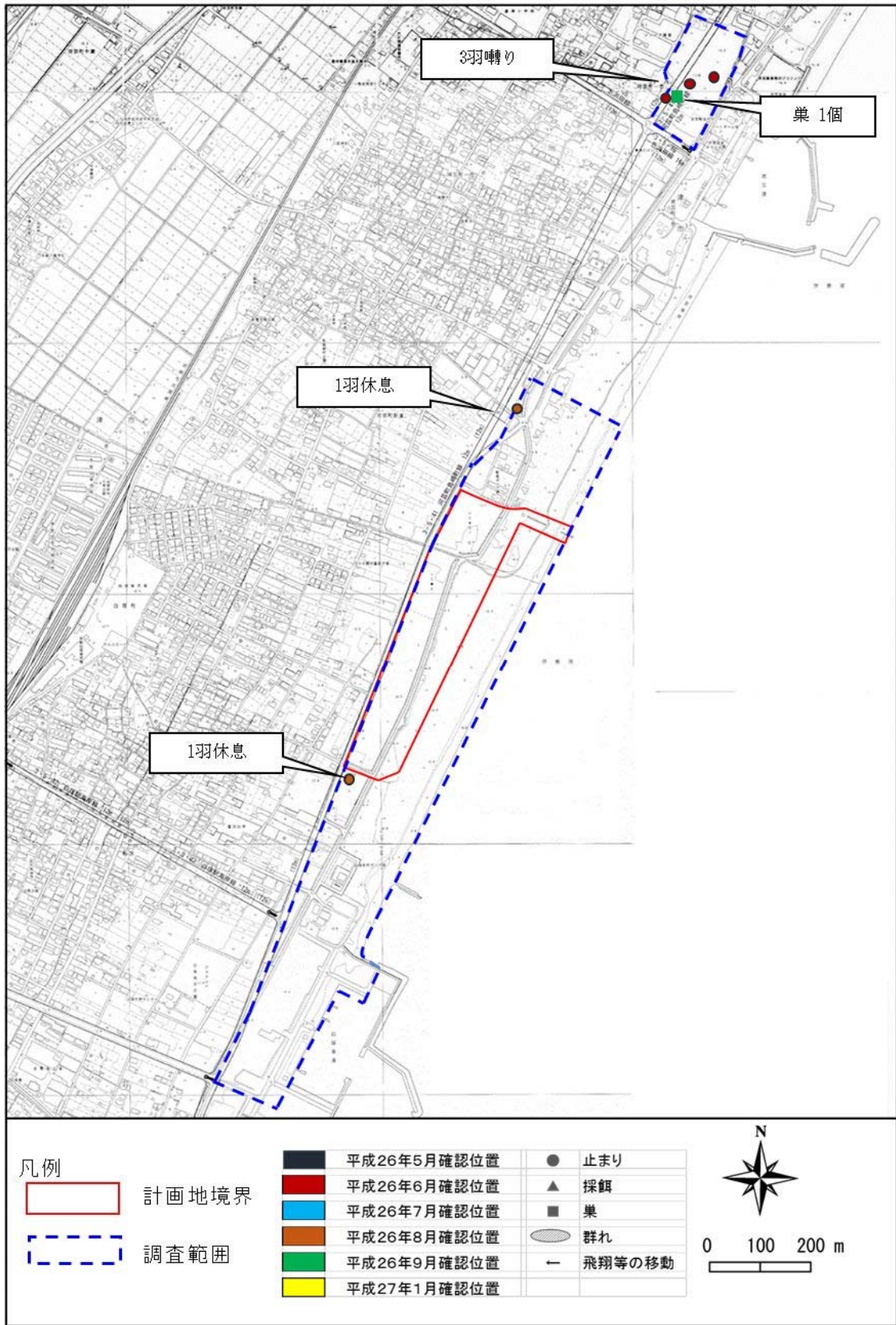


図 3.2-8 オオヨシキリの確認位置

9月に確認したオオヨシキリの巢の営巣環境を表 3.2-15 に、詳細位置を写真 3.2-1 に示す。

営巣環境は、耕作地跡地に成立しているヨシ群落であ、周辺部は住宅地となっている。ヨシ高さは2.2m、密度が122本/m²で、ヨシの約90%が生きた状況であった。確認地点のヨシ群落面積は約5,500m²あり、既往検討（「中勢沿岸流域下水道(志登茂川処理区)志登茂川浄化センター環境保全エリア設置に関する検討報告書(平成20年11月三重県)」)において、オオヨシキリ1つがい繁殖に必要とする面積が最少で1,000m²、一般的には2,600m²とされていることを踏まえると、十分な面積を有するヨシ群落である。

なお、8月には調査範囲内のヨシ群落で確認されていることから、これらヨシ群落や近傍の平成24年度ヨシ移植を行ったヨシ保全区域で繁殖が行われる可能性があると考えられる。

表 3.2-15 営巣環境調査結果

項目		No.1
ヨシの高さ (m)		2.2
ヨシの密度 (本/m ²)	生きたヨシ	112
	枯れたヨシ	10
	合計	122
水深 (m)		0.2
群落面積 (m ²)		約5,500m ²

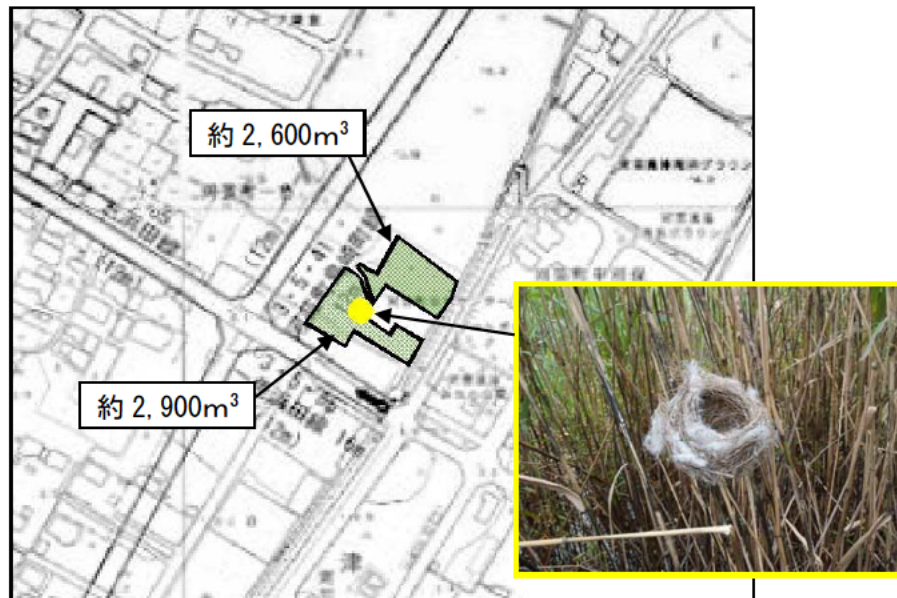


写真 3.2-1 オオヨシキリの巢確認地点


13) 調査対象種以外の特筆すべき種（鳥類）

今回の調査では、調査対象種以外に特筆すべき鳥類として、ウミアイサ、カンムリカイツブリ、ウミネコ、ミサゴ、カワセミ、ハヤブサ、アオジの7種を確認した。

【ウミアイサ】

ウミアイサの生態情報等を表 3.2-16 に、確認位置を図 3.2-9 に示す。

表 3.2-16 特筆すべき種の生態および確認状況（ウミアイサ）

ウミアイサ	カモ科	種の 保存法	-	環境省 RL	-	三重県 RDB	-	近畿 RDB	R3 (越冬)
生態	日本には冬鳥としてほぼ全土に現れるが南西諸島には少ない。海岸の沿岸に現れ、比較的浅い岩礁にいることが多いが、砂浜に来ることもある。河口部や干潟の水路、潟湖などに入ることもあるが淡水湖に来ることはまれである。潜水し、水中を脚と翼を使って泳ぐ。主として魚食で、体長 8~10 cm 程度の獲物をくわえとり、水面に浮かんで呑み込む。朝夕に活発に活動し、水中に 3~7m くらい潜水し、15~60 秒くらい潜る。								
確認 状況	平成 27 年 1 月 16 日に海上で採餌する 2 羽を確認した。								
									
ウミアイサ									
平成 27 年 1 月 16 日撮影									